

勝山の魅力再発見

～ スローライフが見えてくる～

今年の新春座談会は、市内で自然に関わる活動を行っている皆さんに、勝山市の魅力と、最近注目されているスローライフについて語っていただきました。



Okuda Touro 奥田 徹さん
(荒土町伊波=47=) 地域住宅工房奥田設計室

見える仕掛けが欲しいですね。ゆめおれ勝山がオープンしましたが、どのように機織りが行われていたかが具体的に見えるから興味を持ってもらえるし、ああいう見せ方、仕組みが必要ですね。

國吉 最近のスローライフという考え方がつながりますが、都会から来たかたが、自然とのつながりや調和に気付いてもらえるような仕組みがベストではないかと思えます。

自然と調和した活動や歴史、文化に育まれた中で生活しているということ、実践しながら伝えることができるところが、勝山の良いところではないでしょうか。

市長 スローライフというのは、これ



藤井 由紀夫さん Fuji Yukio
(野向町聖丸=58=) のむきのえごま取締役

市長 新年明けましておめでとございませう。

— おめでとうございます。

市長 本日は皆さんに、「勝山の魅力再発見・スローライフ」というテーマで自由にお話しただきたいと思っています。

— どうぞよろしくお願ひします。

まずは知ってもらつてから

市長 私は勝山の景観はとても素晴らしいと常々思っています。特に山並みが好きですね。皆さんは特に気に入っている風景はありますか。

藤井 私は仕事で35年間福井へ通って

までの生活を見直すこと、あるいは自然との共存が人間の根源であるということに、皆が気付き始めたということだと思えます。ライフスタイルが多様化する中で、その一つがスローライフだと思えます。それに応えられるまちづくりを目指したいですね。

奥田 時代とか世の中を変えられる力がスローライフにはあると思えます。

小原は特別な場所

森石 私は17年前に京都から勝山へ来ました。その時に小原の話を聞いて、初めて行って感じたのは、とても神聖な場所だということ。空気が違うし、山の神がいる聖地という感じで、なぜか私には「まだ早い。」と言われた気がして…。それ以来ずっと訪れたことがなかったんです。でも、小原エコプロジェクトの活動はずっと気になっていたこともあ



Yamagishi Masahiro 山岸 正裕
勝山市長

ました。福井からの帰りに、保田や発坂から見える山並みは素晴らしい、仕事で嫌なことがあってもあの景観を見ると安堵感がある、勝山に住んでいて良かったなと感じていました。

市長 そうですね。まったく同感です。市では、四季折々の景観を多くの人に知ってもらおうと、写真コンテストを行い、優秀作品を絵はがきにしています。素晴らしい自然のあるまちには、いい絵はがきがあるものだから。

奥田 私は自然エネルギーを生かした家づくりを提唱しています。

勝山市のまちなかには、昔ながらの自然を生かした家が残っていて、素晴らしい中庭のあるお宅がいくつもあります。うまく自然と共存した日本の美とも言えるものなので、これをPRして一般公開などができれば、まちなかにもっと人が来てもらえるのではないかと思います。

市長 最近、家やお店を公開し、「まちかど博物館」として観光客に見てもらおうという取り組みが始まっています。

小笠原藩主の御典医のお屋敷が、現在はクリニック・デ・ふかやの敷地内にある、そこにも立派な中庭があるんです。所有者のかたが、イベントの時にその庭を公開しているんです。このような流れをつな

つて、今年久しぶりに訪れてみました。都会から移住してこられた重松さんとも意気投合でき、改めて小原の魅力を感じる事ができました。

國吉 小原がとても神聖な場所に感じるという話がよく聞きます。

藤井 何がそういう雰囲気を感じさせるんでしょう。

森石 私は、あそこまで山奥の自然の濃いところに行つたことがありませんでした。動物的な感覚を呼び起こされたような感じでしょうか。

國吉 それは私も感じますよ。小原にいと妙に落ち着きませんか？古民家修復に来た学生たちも「2、3時間ボーっとしていると、とても落ち着く。」と言っています。昔からここに住んでいたような感覚になるらしいです。

藤井 やはり人間のDNAの中にある何かに響くんでしょうね。

國吉 私も以前都会でサラリーマンをしていたころは、毎日違和感がありました。周りに山が見えないんです

ていくことが大事ですね。

森石 私もあの庭は夏ごろ見せてもらいました。確かに素晴らしいですね。

奥田 市民の皆さんもあまり知らないのですが、今後PRしていくことが大事だと思います。博物館的に見せることもいいですが、できれば生活の様子に分かるような見せ方ができればもっといいですね。

スローライフは価値観を変える

奥田 北谷町小原の古民家修復も、ただ直したというだけでなく、あの小さな家に何人の家族が暮らし、大自然の中でどんな生活をしてきたのか



Kuniyoshi Kazumi 國吉 一實さん
(長山町2=40=) 小原ECOプロジェクト代表



Moriishi Mariko 森石 まり子さん
(荒土町北宮地=43=) 造形作家

ね。それが勝山に帰ってきて精神的にも落ち着くようになりましたね。同じように小原のイベントに参加された人たちのDNAにも響くんではないでしょうか。

藤井 何か人間の本質的なもの、スローライフ的なものが小原にはあるんじゃないでしょうか。

自然との接点が大事

市長 野向町もいいところですよ。やはりスローライフ的な良さはあるでしょう。

藤井 そうですね。いまエココミュニティから立ち上がったエコマの事業を、いろいろ展開しようとしています